

# << 注 意 報 >>

岡病防第11号  
令和4年7月1日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

## 病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

令和4年度病虫害発生予察注意報第1号

令和4年7月1日  
岡山県

病虫害名 **果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）**

1. 発生が予想される地域と品目  
県内全域のモモ、ナシ等

2. 発生が予想される時期  
7月上旬～8月上旬

3. 予想される発生量  
**多**

4. 注意報発表の根拠

(1) 赤磐市の予察灯における **チャバネアオカメムシ誘殺数は、6月4～5半旬で104頭と平年(36.4頭)より多い。**また、フェロモントラップにおいても同様の傾向で、**6月4～5半旬で576頭と平年(83.9頭)より多い。**

(2) 広島地方気象台が6月23日に発表した季節予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないとされており、飛来に好適な条件が続くと考えられる。

5. 防除対策及び防除上の参考事項

(1) モモ、ナシでは「袋掛け後の肥大～成熟期（袋と果実が密着し、カメムシ類が袋の上から吸汁可能となる）」の果実被害が懸念される。

(2) 収穫期まで、カメムシ類の発生に応じて薬剤散布を行う。モモ、ナシにおける防除薬剤は表1および表2による。

(3) 黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果がある。ただし、クサギカメムシには効果がないこと、カメムシの発生が多いと十分な効果を得られないこと等から、薬剤防除を徹底する。

(4) 樹全体に目合い4mm以下のネットを掛けるとカメムシ類に対する防除効果が得られる。ただし、すでにカメムシ類が寄生している樹にネットを掛けると大きな被害を受けるので、網掛け前に薬剤防除を行う。

(5) 薬剤防除にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。

(6) 最新の農薬登録情報は、農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認

できる。

- (7) 薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**収穫期が近い場合の農薬散布は、特に収穫前日数をよく確認して行う。**

表1 **モモ**のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和4年6月29日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC <sup>2)</sup> コード
	使用時期	希釈倍数	使用回数	
アーデント水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000倍	3回以内	3A <sup>3)</sup>
アーデントフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アグロスリン水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	5回以内	
アディオン乳剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内	
テルスター水和剤 <sup>1)</sup>	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
MR.ジョーカー水和剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
ロディー乳剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000～10,000倍	2回以内	
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内	
アドマイヤーフロアブル	収穫3日前まで	5,000倍	2回以内	
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000～4,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aは合成ピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

表2 ナシ(有袋栽培)のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤(令和4年6月29日登録状況確認)

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC <sup>2)</sup> コード	
	使用時期	希釈倍数	使用回数		
アーデントフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	3A <sup>3)</sup>	
アーデント水和剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内		
アグロスリン水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000~2,000倍	3回以内		
アディオフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,500倍	2回以内		
アディオ乳剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	2回以内		
サイハロン水和剤 <sup>1)</sup>	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内		
スカウトフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,500倍	5回以内		
テルスター水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000~2,000倍	2回以内		
テルスターフロアブル <sup>1)</sup>	収穫前日まで	3,000~6,000倍	2回以内		
マブリックEW/水和剤20 <sup>1)</sup>	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内		
ロディー水和剤 <sup>1)</sup>	収穫前日まで	1,000倍	2回以内		
MR.ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2,000倍	2回以内		4A
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで	1,000倍	2回以内		
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5,000~10,000倍	2回以内		
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内		
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内		
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000~2,000倍	3回以内		
エスピーラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000~4,000倍	3回以内		
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28	
エルサン水和剤40	収穫60日前まで	800~1,000倍	2回以内	1B	
スプラサイド水和剤	収穫7日前まで	1,500倍	3回以内		
スミチオン水和剤40	収穫14日前まで	800~1,000倍	6回以内		
スミチオン乳剤	収穫14日前まで	1,000倍	6回以内		

1) 水産動植物に対して毒性があるため養魚場周辺などで使用しない。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aは合成ピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

(参考) この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

